

「潔癖のBL劇(仮)」

第1話

—2稿—

2023/3/31

米俵

〈人物表〉

小林 壮太 (15) 高校一年生

田中 聡 (16) 高校一年生・壮太の同級生

小林 寿梨 (18) 高校三年生・壮太の姉

〈第一話 ログライン〉

・お調子者で初心な壮太は、文化祭のBL演劇の主役になり、**過激な内容がある**と知り後悔するが、**無理とは言えず覚悟を決める話。**

〈ねらい〉

・ラブコメディーを書く

1. 壮太の家・階段（夕）

二階建ての一軒家。小林壮太（16）階段を勢いよく上がってくる。その後ろを田中聡（16）がついていく。聡の顔は映らない。足元のみ。

壮太 「姉ちゃん、姉ちゃんいるー？」

返事はない。

2. 壮太の家・寿梨の部屋（夕）

シンプルな部屋に大きな本棚。本棚の中には、動物図鑑や植物図鑑と共にBL本が大量に並んでいる。

小林寿梨（18）あか抜けた容姿。美脚が目立つような部屋着で携帯をいじっている。

勢いよく寿梨の部屋のドアが開いて、

壮太 「なんだ姉ちゃんいるじゃん。聡、入っ——」

聡の方を向こうとした壮太の首が締められる。

寿梨 「壮太、ノックしろっていつも言ってるでしょ」

壮太、苦しさに寿梨の腕をタップする。

寿梨 「で、何の用？」

壮太、首をさすって、

壮太 「姉ちゃん、BL本貸してくんない？」

寿梨 「なにあなた、もしかして、ついに目覚めた？」

寿梨、意地悪い笑みを浮かべる。

壮太 「ちっげーよ。劇でやんだよ」

寿梨 「演劇？ あんた演劇部だっけ？」

壮太 「いやいや、文化祭でやんの」

壮太、ゆっくりと寿梨の本棚に近づく。

寿梨 「は？ 文化祭でBL？」

壮太、寿梨の本棚を探し出す。

寿梨 「こら。触んな。まだ貸すって言ってない」

寿梨、壮太に座れと指示を出す。

壮太、しぶしぶ寿梨の前に正座する。

寿梨 「文化祭でBLってどういうこと？」

壮太 「あー……と。多様性とLGBTとで、俺が——」

聡、壮太が話すのを遮って、

聡 「すみません。そちらについては僕の方から説明しても宜しいでしょうか」

素早く壮太の隣へ正座する聡。髪をぴっちりとし七三にしており、黒縁の瓶底眼鏡をかけている。

寿梨、聡に驚いて、

聡 「うわ、びっくりした。いたの……」

聡 「邪魔しております。田中聡と申します」

寿梨、つられて丁寧、

聡 「あっ、どうも。小林寿梨です」

聡 「寿梨様、宜しくお願ひいたします」

聡、深々とお辞儀する。

寿梨 「様はやめて。なんかSM嬢みたい」

壮太 「ピツタリだろ。暴力女」

寿梨、壮太を睨む。

聡、眼鏡をくいっと上げて、

聡 「早速ですが、事の経緯を……」

寿梨、体勢を整え、聡の方を向く。

聡 「僕たちの高校では一年生は演劇をするのが恒例でして」

聡、声の調子を整えて、

聡 「今年のテーマは多様性」

こっそりと足をくずす壮太。

聡 「そこで僕たちのクラスではLGBTを取り上げようという話になりました」

寿梨 「それでBL？ 少し安易な気もするけど……」

聡 「すみません。僕が提案しました」

声小さくなり、下を向く聡。

壮太 「姉ちゃん。聡泣かせんなよー」

寿梨 「うるさい」

聡、顔を上げて、

聡 「それで……今回、僕が脚本を書くことになり、ご協力頂けないかと思ひました」

寿梨 「協力？」

壮太 「だからさ、本貸してって話。俺も参考にしたいし」

寿梨 「なんであんたが参考にすんのよ」

聡 「壮太は演者なので役作りをしたいと……」

寿梨 「壮太が？ あー、村人？」

壮太 「おいおい、馬鹿にすんなよ。主役だぞ」

寿梨 「嘘でしょ。まさか立候補したの？」

壮太 「推薦だよ」

寿梨 「誰の」

壮太、照れくさそうに、

壮太 「女子の」

寿梨 「あんた、女子に虐められてんの？」

壮太 「ちっげーよ。俺の魅力に気付いてる女子がいんだよ」

寿梨 「なんだ煽てられただけか」

壮太 「だから、違うって」

聡 「今回、所謂王子様側である攻めはすぐに決まりました」

寿梨 「えつまさか、壮太が……」

聡 「壮太は、姫側である受けですね」

聡、自信ありげに眼鏡をくいとあげる。

壮太、立ち上がりながら、

壮太 「いやいや聡、言い方が悪いって。王子と姫じゃなくてさ、なんつーの。ほら、W主演ってやつよ」

壮太、ポーズをとってみせる。

寿梨、壮太を無視して、

寿梨 「で、王子はどんな？」

聡、サツと携帯を出して、寿梨だけに見せる。

寿梨 「あー、なるほどね」

壮太 「ま、俺の方がいい男だけどね」

寿梨、立ち上がったままの壮太をじっと見る。

壮太 「なんだよ？」

数秒目を閉じて、もう一度壮太を見る。

寿梨 「悪くないかも……」

寿梨、聡の手をとって、

寿梨 「いいでしょう。協力しましょう」

聡 「寿梨さん、ありがとうございます。心強いです」

聡、寿梨、握手をする。

壮太 「姉ちゃん、俺は？」

寿梨 「その辺の……気になるの読んでいいから」

壮太、嬉しそうに、

壮太 「了解」

壮太、本棚を眺めてから、一冊取り出し読みだす。

× × ×

壮太、床に本を叩きつけて、

壮太 「おい、なんだよ、コレ」

驚く聡と寿梨。

寿梨 「あんた何してんの」

壮太 「せ、せ、せっ……下が出てんじゃねーか」

寿梨、壮太が投げた本を拾って、

寿梨 「あー、童貞くんはこの内容はきつかったかな」

壮太 「童貞とか関係ねーだろ」

寿梨 「ごめん、ごめん」

寿梨、意地悪い笑顔で、

寿梨 「流星に劇で下はないだろうから安心して」

壮太 「当たり前だろ！」

聡 「えっ、壮太って童貞だったんですか？」

壮太 「だから、そこは関係ないって——」

聡 「彼女は？」

寿梨 「いたことないよ」

壮太 「姉ちゃんが答えんなよ」

聡 「そっか、そうだったんですね」

聡の表情が和らぐ。

壮太 「なんでちよっと嬉しそうなんだよ。あ、お前もか？ 聡も彼女いたことないのか？」

聡、少し間を置いて、

聡 「そうですね」

壮太 「なんだー。そっか、そっかー。お前も仲間か」

壮太、聡の背中をバンバンと叩く。

寿梨 「聡くんもさ、こういうの苦手なの？」

エロシーンの載ったページを開いて見せる。

壮太 「おまつぶぎけんなよ」

壮太、顔をそむける。

聡、まじまじと見て、

聡 「全然平気です。興味深い……」

壮太 「お前っ、それ男同士だぞ」

寿梨、聡、壮太の方を見る。

聡 「男同士だからなんですか？」

寿梨 「あんた、本当に姫役やる気あんの？」

壮太 「……」

聡 「壮太、もしかして嫌になったんですか？」

壮太、焦ったように、

壮太 「そんなわけねーだろ」

聡 「それなら、しっかり勉強して下さいね……」

聡、本棚から数冊選んで壮太に渡す。

壮太 「あ、いや……」

聡 「大丈夫です。心配するようなものは載っていません」

壮太 「……分かった」

壮太、渡された漫画を見つめる。

3. 駅までの道（夕）

壮太、聡、並んで歩いている。

壮太 「あのさ、聡。今から劇の内容を変えるってのは」

聡 「ないですね」

壮太 「時代劇も面白いと思うんだけど」

聡 「ないですね」

壮太 「役が変わるってことも——」

聡 「ないですね」

聡、悲しげな表情で、

聡 「やっぱり、嫌なんですネ？」

壮太 「いや、違うって。そんなわけないじゃん」

聡 「……安心しました」

壮太 「あとさ……」

聡 「まだ何かありますか？」

壮太 「お前の敬語って、いつ終わるの？」

聡、少し考えて、

聡 「……分かりません」

壮太 「まあ……いいか」
聡、壮太を見る。

4. 駅・改札前（夕）

人込みの中、向かい合う二人。

聡 「そういえば、時代劇の話ですが……」

壮太 「もしかして、変えたり？」

聡 「それはないですが……」

壮太 「ですよね」

聡 「時代背景を変えるとするのは面白いと思いました」

壮太 「あつ、あー。そういうね」

聡 「歴史上の人物のBLも沢山ありますしね」

壮太 「お前、結構詳しいのか？」

聡、間をおいて、

聡 「全然ですよ」

眼鏡をくいと上げる。

聡 「壮太、いい劇にしましょうね」

壮太、優しく微笑んで、

壮太 「だな」

聡を見送る壮太の背中。

（続く）